



佐々木孝雄

ささきたかお ●宮城県出身。
1983年理学部地球科学科
卒業。地質コンサルタント会
社で国内外の地質調査や水
理調査等を担当。豊富な海
外経験を生かし、留学生支
援等を通しての国際交流にも
貢献。

歩荷の成果

仙台市出身の佐々木孝雄さんは、隣県で地質系を学べる学部学科のある大学を希望し、本学理学部地球科学科(当時)に進学した。地質地層への興味から、地質層序学(地層のできた順序を研究する分野)の講座に所属し、福島県広野町を卒論のフィールドとして、民家に寄宿しながら石灰質ナノ化石を用いた常磐炭田地域の研究を行った。担当教員には山岳部の顧問としてもお世話になり思い出も多い。また、当時の教員の多くは海外帰国組で、その国際的な人脈によりケンブリッジ大学の有名な教授が大学を訪れたこともあった。突然の訪問で指し棒がなく、掃除のはたきを代用して特別講義をやってもらったシーンは忘れられない。4年間山岳部に所属し、四季を通じて山に登った他、コーラ運びのアルバイトで山寺を上り下りしたり、スキーシーズンには蔵王温泉旅館で住み込みのアルバイトをしたりと、とにかく山と関わり深い大学生活であった。

卒業後は、地質調査会社に就職。当時はバブル期まっただ中で、ゴルフ場開発のための調査に数多く携わった。その後、現在の会社に転職し、東京・仙台・札幌、各地で道路・鉄道・ダム・堤防などのインフラに関わる応用地質分野の調査を担当することになる。この時期には同じ学科を卒業した後輩たちといっしょに仕事をする機会にも恵まれ、大学時代を懐かしく感じることもあった。

そして、現在は本社海外・事業展開室で海外を中心とした分野への進出を模索している。ケニア、ブラジル、カナダ、キリバス…、地下水開発や地盤沈下対策、学会発表など、さまざまな目的で訪れた国々は優に10カ国を超える。国内外で知り合った現地の人や留学生と日本で会食をしたり、就職の世話をしたり、日本語を教えたり、公私にわたる国際色豊かな交流関係が佐々木さんの懐の深さを物語る。地層、地質といった悠久の大地が相手ながら魅力的な人々との出会いもこの仕事の醍醐味。かつて恩師に言われた「学部で学ぶものは一般教養程度と考えよ」という言葉が今も学び続ける姿勢の素地になっている。佐々木さんの学び、吸収し続ける姿勢を見習いたいものだ。



山大聖火リレー



大学時代に培った学び続ける姿勢と体力で
世界各地の地層を巡り、国際的な交流を深める。

佐々木孝雄 株式会社地圏総合コンサルタント 海外・事業展開室



2013年、ケニア共和国で水戸開発のために水質試験を行う佐々木さん(黄色いベストの男性)。その様子に興味津々の現地の人々。水戸開発への期待のほどが窺える。



2014年にトリノで開催されたIAEG(国際応用地質学会)会議のシンポジウムでは、インドネシアの地盤沈下をテーマにプレゼンテーションを行った。